

認知症を知

少子高齢化が進む中、最近では高齢者の交通事故も目立つ様になり、「老い」が原因だけでは無さそうな事例も増加している。今回は特別企画として、改めて【認知症】をテーマに認知症医療の最前線でも多くの患者と向きあっている白井病院の田中医師に認知症について症状や検査・治療方法はもちろん、自宅でもできる事などを伺った。

認知症について種類や症状について教えて下さい

認知症は大きく3つ
 ①アルツハイマー型②レビー小体型③脳血管性が「三大認知症」と呼ばれています。アルツハイマー型は、皆さんも名称は良くご存じだと思いますが、罹患の50%を占めています。症状は最近経験した事が記憶できない。食事をしたこと自体忘れてしまう。また、家族の顔が分からなくなった、さらに判断力や理解力が低下するので、食事を作ったり計算ができなくなったりします。行動的にも、無気力やうつ状態になったり逆に極度に興奮したり暴力的になることもあります。次にレビー小体型は、アルツハイ

マー型の次に罹患の割合を占めています。ここ最近増加傾向にあります。主な症状の特長として、実際に見えない人が見える「幻視」や物が歪んで見えたりすることや、寝ている間に怒鳴ったり、奇声を発したりします。また、パーキンソン症状(手足の震えや小刻みに歩くなど)や日や時間帯によって頭が明瞭な時と、ぼーっとする時が特徴的です。最後に脳血管性は脳梗塞や脳出血が原因で発症します。症状は脳の場所や障害の程度によって異なりますが、手足の麻痺などの神経症状が起きることがあります。

——「認知症」と老化による「物忘れ」の違いについて教えて下さい。

人は誰でも加齢と共に脳の機能が衰え、年相応の自然な物忘れがみられるようになります。まず、加齢による物忘れとは、例えば「すっかり時間を忘れてしまう」や「印鑑をどこにしまったか忘れて探している」などです。一方、認知症の症状による物忘れとは、「約束したことを覚えていない」「印鑑をしまったことを忘れる」といった【そのこと自体】を覚えていられないこと。これは記憶の初期段階である、情報を学習し覚える事が出来なくなってしまう。

——自宅で認知症のチェックはできますか？

実際診察でも行っている方法ですが、今日は何月何日?・朝ごはんは食べました?・簡単な計算(2桁問題など)・絵(五角形や直方体・アナログ時計)を書いてもらうなどの質問でまったく答えられない、全くの見当違いな回答でしたら疑いが強いので相談された方が良いでしょう。(続きは8月号にて)



精神科 部長
田中敬剛 医師

加齢による物忘れと認知症の違いは?



<p>物忘れ</p> <p>物忘れを自覚している 体験したことの一部を忘れる ヒントがあれば思い出す 判断力は低下しない</p>	<p>認知症</p> <p>物忘れの自覚がない 体験したこと自体を忘れる ヒントがあっても思い出せない 判断力が低下する</p>
--	--